

2021 年度事業計画書

〔 2021 年 04 月 01 日 から
2022 年 03 月 31 日 まで 〕



公益財団法人

つくば科学万博記念財団

TSUKUBA EXPO'85 MEMORIAL FOUNDATION

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、財団を取り巻く社会経済や科学技術環境が大きく変化していることを踏まえて「つくば科学万博記念財団中長期計画」（2017年度策定、以下、「財団中長期計画」という。）を定め、財団の新生化を図るとともに、財団中長期計画に言う「科学技術で人をつなぎ、未来をつくる人と文化を育てる」活動に取り組んできた。

2021年度においては、昨年来の新型コロナウイルスの感染が一定の終息をみるまで、来館者とつくばエキスポセンター（以下「センター」という。）スタッフの安全確保を最優先として活動していくことが求められる。このため、国や自治体等の動向を踏まえ、柔軟かつ機動的にセンター運営していくことが必要となる。また、センター活動自体についても“3密”の回避など新型コロナウイルスの感染拡大防止を意識したものとする必要がある。

2021年度は現行財団中長期計画の最終年度であり、その到達状況を評価し、次の中長期計画を策定する必要がある。策定にあたっては、現行計画の基本的方向を踏まえつつ、ポストコロナ社会の生活様式等にも配慮し、できるだけ具体的な計画となるように努める。

業務の実施にあたっては、財団と財団が運営するセンターが茨城県とその周辺地域の来館者に支えられていること、センターが存する地域の行政機関や研究機関、そして様々な教育機関と緊密な関係を持って運営が行われていることを十分に意識することが必要である。

また、科学館としての基本的性格から、センタースタッフの一人ひとりが、国の科学技術政策の方向や最新の科学技術動向に注意を払っていくことが求められる。更には、これらの社会経済活動の中で、筑波研究学園都市における科学館の果たすべき役割は何かを考えながら活動していくことが必要である。

このような認識から、2021年度における事業の基本的考え方は以下のとおりとする。

① 筑波研究学園都市にある科学館として、地域からの期待に応え、地域における存在感を高めることを念頭に、社会の中での科学技術の重要性を考える場となるよう活動していく。このため、つくば市との連携協力を強化して活動していくとともに、地元における科学技術の普及と振興のため重要な役割を果たす。

② 社会の持続的発展における科学技術の重要性をより理解できるよう、地域に開けたセンター運営の下、外部機関、産業界、大学等との連携強化を

図り、科学技術を核としたコミュニティの形成、子ども達の科学技術への関心を高めていく活動を展開する。

③ 新型コロナウイルスの感染が終息するまでの間、国、茨城県、つくば市など地元の動向も踏まえ、来館者とセンタースタッフの安全確保を最優先として活動する。

I. 個別の事業活動に関すること

1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益1・収益1】

センターの運営事業は、財団中長期計画に基づき、「つくば」に立地することを意識し、「常に科学技術に触れることができる」、「科学技術の本質を理解することができる」、「未来の社会経済の姿を想像できる」という観点から、新型コロナウイルス感染拡大防止にも留意しながら、展示や科学技術コミュニケーション、催事、プラネタリウム等の様々な活動を推進していく。加えて、現行財団中長期計画の到達状況を評価し、次期財団中長期計画（2022～2026年度）を策定する。

事業の実施にあたっては、地元自治体やつくば地域に立地する研究開発機関、大学や民間企業等と連携・協力をより充実させるとともに、ボランティアの幅広い協力も得て、センターの役割を果たしていく。

また、2021年度に開催が延期された国際イベント「東京2020オリンピック・パラリンピック」については、昨年度に続き、つくば市等と連携・協力して、関連事業であるコミュニティライブサイト（臨場感LIVEビューイング）の計画・実施を進める。

加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、館内の抗ウイルス対応、毎日の消毒作業等を実施し、館内での感染拡大防止に努める。

(1) 展示【公益1】

展示事業は、あらゆる世代の来館者が科学技術に触れることのできる機会や場となることを目指し、科学技術への興味・関心の惹起、発展的な理解増進に繋がるよう、展示場ごとの機能や役割を明確化し展開する。

ポストコロナ社会への対応を留意した展示の在り方、つくば中心市街地の動向や来館者のニーズを踏まえ、展示更新等の計画を立てる。

また、各展示場においても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努め、来館者が安心して見学できるよう安全性に配慮した環境整備を行っていく。

加えて、あらゆる来館者に向けたサービスの向上として、外国語対応の強化をはじめ、幼児向け、親子向け等の幅広い層に科学のへの興味を喚起する解説手法の検討を行っていく。

① 1階展示場および屋外展示場【公益1】

1階展示場および屋外展示場は、誰もが科学技術を体験し、不思議さを実感できる「科学技術のエントランス機能」を果たしていく。

1階展示場は、長期展示による老朽化や情報の陳腐化等が著しい展示物は適宜更新作業を引き続き進める。また、センターの第一印象ともなる屋外展示場は、H-IIロケット実物大模型がつくばのランドマークともなっていることを意識し、多様な交流が生まれる空間づくりやイベントを実施する。

② 2階展示場【公益1】

2階展示場は、科学技術の重要性を認識し、理解を深め、発展させる機能を果たしていくことを目指し、生活活動から未来を考える機会となる展示場の運営に務め、2021年度より開始される第6期科学技術・イノベーション基本計画の方向性や最新の研究状況・運用状況を念頭に、関係機関等の協力を得て、情報の更新や追加を適宜実施する。また、筑波研究学園都市の研究機関、教育機関等からの協力を得て、「つくば」の研究活動が可視化できる展開に向けて取り組みを進める。

(2) 催事【公益1】

催事業は、科学技術のエントランス機能、科学技術の重要性と理解の発展機能を果たしていくことを念頭に、科学技術をより身近に感じ、理解増進の高い効果が期待できるよう事業に取り組む。

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を意識しながら、催事業の在り方を検討し、安全で魅力的なプログラム等が提供できるよう企画・実施する。

① 一般催事【公益1】

一般催事は、誰もが気軽に参加でき、自然現象や生活を支える身近な科学技術等を実感できるよう、最新研究の状況や来館者のニーズを踏まえて内容を更新し、サイエンスショー、科学教室、講演・講座を開催するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、来館者が安心して参加できる状況を整えて実施する。

その他、外部資金の取得と活用に努め、プログラミング教室の開催や新規プログラムの開発を行う。

② 特別催事【公益1】

特別催事は、科学技術をテーマに来館者が対話し、未来を想像する契機となるよう、話題性、新規性、意外性を踏まえたユニークな視点から科学技術の役割を紹介する企画展等を開催する。

企画展においては、社会からの関心をはじめ、幅広い世代の来館者層の発掘や来館者数の増加に留意し、魅力ある内容になるよう企画・開催する。

2021年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、こ

れまで重視してきた体験型や規模等の見直しを図り、パネル展示を主とした巡回展等を活用して開催する。夏季は、静物展示を中心に展開し、秋・冬季においても、その時点での状況に注視しつつ、来館者ニーズの高いテーマでミニ企画展を開催する。

(3) プラネタリウム及び 3D シアター【公益 1】

プラネタリウム及び 3D シアターは、驚き、発見による科学技術の理解増進機能を果たし、より幅広い来館者層に足を運んでもらえるよう、魅力ある番組の企画と上映を実施する。

① プラネタリウム【公益 1】

プラネタリウムは、センターの中核的設備として、魅力あるプログラムの企画や上映をはじめ、将来を見据えた保守管理・設備更新の実施により機能の充実を図っていく。

2021 年度については、昨年度に更新したデジタル式プラネタリウムの新機能を最大限に活用した星空解説を行うとともに、リバイバル番組や、サブスクリプションサービスを効果的に活用した番組編成を行いながら、柔軟な運営と魅力ある上映を行っていく。加えて、設備更新の長期計画を見直し、次に向けたリニューアルの準備を進める。

上映においては、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から来館者の安全を第一に考え、状況に応じた施設の消毒や定員制限等の対策を施し、来館者が安心して観覧できる運用を行う。

また、学習指導要領に沿った学習番組の充実を図り、学校団体への柔軟な対応や誘致に努め、団体利用の促進に繋げていく。

その他、研究開発機関、大学や民間企業等と連携し、プラネタリウム施設を効果的に活用した実証試験やサイエンスレクチャー等のイベントを企画していくとともに、つくば市が進めている東京 2020 オリンピック・パラリンピックに関連したコミュニティライブサイト(臨場感 LIVE ビューイング)にも協力し、プラネタリウム施設を利用した新たな可能性を探る取り組みにもチャレンジしていく。

② 3D シアター【公益 1】

3D シアターは、センターの特長ある体験設備としてプログラムの上映を行うとともに、団体来館者を対象とした利用促進やシアターとしての機能を活かした多様な展開に取り組む。

(4) ミュージアムショップ【収益 1】

来館者の科学技術に対する興味関心の喚起に資するため、当財団の知的・人的資源の活用を図り、科学館としての品揃えやディスプレイに配慮し、オリジナル商品の開発や地域の特色も踏まえた商品等の充実・販売の促進により、売り上げの増加に努める。

また、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、休館等の状況に対応す

る販売促進の方法（通信販売等）や需要の見込める商品の検討を行い、ポストコロナ社会でのミュージアムショップのあり方を模索する。

レストラン休業中の来館者の食事の要求に対応するため、地元の老舗店のサンドウィッチ販売を継続し、センター全体の魅力向上に取り組む。

(5) その他【公益1・収益1】

センター全体の活動周知や団体の来館促進、学校教育のための利用向上を目的としたイベント等の開催をはじめ、科学技術コミュニティの場になることを意識し、関係機関等との連携や協力を得て展開していく。【公益1】

新型コロナウイルスの影響によりカフェの運営業者が撤退したことに関し、引き続きレストラン運営を行う業者を探しつつ、新たな活用の方法を検討する。【収益1】

その他、財団の事業目的に沿った施設等の貸与・貸付を行う。【収益1】

2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業【公益2・収益2】

地域全体に幅広く科学技術の理解を増進し、科学技術を通じた人材育成、産学官連携、国際交流を行う。また、科学技術コミュニティの中核的機能としての役割を果たすことを強く意識し、センターの運営に関する事業と相互に補完し合い、全体として統合が取れた科学技術振興が行われるよう活動を進める。

その他、筑波研究学園都市をはじめとする地域の科学技術振興活性化に資するため、関連する自治体、機関等との連携促進を図りながら各種事業を実施する。

(1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益2】

① 科学技術週間における筑波研究学園都市研究施設一般公開に対する支援をはじめとする施設料金割引や展示・催事等の実施【公益2】

② 科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業【公益2】

「みらいの科学技術振興事業」（つくばリンク事業）の幅広い告知を行い、科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業に対する助成・支援を行う。加えて、教育機関と研究機関の連携によるコミュニティづくりへの支援を検討する。

③ 全国ジュニア発明展【公益2】

未来を担う小中学生がものづくりを通して、創意工夫することを学び、さらに将来の科学技術人材として育てていくことを目的として全国的規模で事業を実施してきたが、2019年度にこの活動をさらに効率的・効果的に進めていくため、事業目的を継承するかたちで地元茨城県全体の小中学生の科学研究・発明工夫活動を県と一体となり、強力に支援していくこと

とした。2021年度も引き続き茨城県と連携し、地元の教育活動の支援に力を入れていく。

- ④ 科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力【公益2】
科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業について、これまでの成果と今後の効果や見通しを踏まえ、「第63回科学技術映像祭」等の事業に共催支援、開催に協力する。
- ⑤ おとなのためのサイエンス講座【公益2】
2017年度より「科学の街 つくば」という環境を活かし、大人が気軽に科学技術について学び、関心を深めることができる場を提供することを目的に開講している。
2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、新しい講師による講座の開拓、新規受講者増に努める。加えて、開講5年目にあたり、地域におけるニーズの調査、新たな目標設定など、今後の活動に向けた見直しを行う。
- ⑥ アウトリーチ活動【公益2】
「つくば」に立地する科学館として、科学技術のリテラシー向上及び普及啓発を目的とし、ポストコロナ社会の生活様式への対応を意識したオンライン等の新しい実施方式を試行しながら、アウトリーチ活動を展開していく。
つくば市と共催している出前教室の実施については、プログラムの充実を図り継続するほか、学校に通うことができない子ども向けの学習施設と連携して活動範囲の拡大にも取り組む。また、外部資金の活用も視野に入れ、活動内容の充実を図る検討も進めていく。
- ⑦ エキスポ科学クラブ【公益2】
将来の科学技術人材の育成とその拠点になることを目的とした「エキスポ科学クラブ」を引き続き実施するとともに、プログラムの見直しや新規プログラムの開発に努める。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、安心・安全なクラブ運用を図っていく。
- ⑧ 科学館連携事業【公益2】
全国の科学館とのネットワークを活用し、科学館展示の合理的な運用を検討・実施する。その中で、展示物の貸出や巡回等の要望にも対応していく。
- ⑨ 学芸員育成のための教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ【公益2】
大学生等の学芸員教育実習及び企業実習、小中学生の職場体験等の受け入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止を行いながら対応し、次世代の科学技術を担う人材の育成に貢献する。

また、昨年度に引き続き、つくばインターナショナルスクール (TIS) と連携し、地域における教育活動の向上を図っていくとともに、次年度以降の活動に関する検討を行う。

(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益2・収益2】

① 助成支援【公益2】

事業の効果や支援の必要性を十分に精査し、青少年を対象とした国際交流推進活動及び国際シンポジウム開催に対する助成・支援を行う。また、研究交流及び産学官連携等を推進する筑波研究学園都市交流協議会、つくばサイエンス・アカデミー等の団体・研究会に対する助成・支援を行う。

② つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益2】

インターネット版科学技術情報「つくばサイエンスニュース」により、筑波研究学園都市にある産学官の研究機関が発表した科学技術関連のニュースをつくば発の研究成果としてわかりやすく発信し、活動の可視化に貢献する。

また、最新の科学技術動向の紹介や専門的事項への関心を惹起する解説等を継続するとともに、関係機関ホームページとのリンク拡大を図り、一層の利用向上を進める。

③ 研究者語学研修を通じた研究者交流【収益2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学等の研究者等の研究交流推進に資するため、文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を実施する。ポストコロナ社会の生活様式を意識した新たな試みとして、オンライン開催を主とし、県外からの参加者も受け入れるなどの拡充に努める。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務について、別団体が取り扱っていることにより、引き続き、休止する。

4. 情報発信・広報活動

2021年度については、ホームページの改修をはじめ、スマートフォンにも対応にした幅広い情報発信を行う。広報媒体（紙ベース）の見直しを図りつつ、特にホームページの更新、SNS、動画配信等のインターネットを活用したタイムリーな発信を精力的に行う。同時に広報目的に応じた対象エリア、タイミング、媒体等の最適化を行い、より効率的かつ効果的な広報活動を行う。

5. その他

財団活動を効率的かつ効果的に進めていくため、関係機関等との連携・協力を得て、事業運営に努めるとともに次期財団中長期計画を策定する。

また、地域における役割の認識や期待に応えるため、つくば市等との定例的な意見交換を継続し、地域に留意した事業の展開や新たな取り組みを検討していく。

II. 財団運営に関する総合的な活動に関すること

1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い業務を適切に執行する。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り適切に運営する。

2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行う。また、これに資するため外部監査として公認会計士による監査を実施する。

3. 基金の運用

財団を健全に運営しその目的を達成するため、金融環境の現状を踏まえ、基金運用の方針に基づき、柔軟かつ機動的に運用を行う。

4. 外部資金

センターの運営等に際して、可能性のある外部資金等を検討し、積極的に対応する。

5. 施設・設備【公益1】

センター来館者の安全性や快適性を確保するため、計画的に施設・設備等の整備を実施し、既存施設の老朽化対策の取り組みを推進する。

6. 業務執行体制

財団業務を担う人材の確保、多様化する業務への柔軟な対応、職員の能力・専門性をより発揮しやすい環境の醸成に取り組んでいく。働き方改革にも積極的に取り組む。

以上